

文学部同窓会だより

第44号

令和6年4月1日
 発行所 立正大学文学部同窓会
 代表者 会長 川口雅世
 事務局連絡先
 〒144-0055 東京都
 大田区仲六郷2-6-2
 事務局長 西岡 勇治
 発行部数 22,000部

文学部同窓会川口会長 挨拶



春の気配もようやく整い、さわやかな季節を迎え皆様
 お変わりなくご活躍のこと
 とお慶び申し上げます。
 文学部創設百周年誠に
 おめでとうございます。

新年早々、災害や事故が発生し国民の間に
 大きな衝撃が走りましたが、無事に百周年を
 迎えられる事を願っています。今後ますます
 のご発展を心よりお祈り申し上げます。

さて、今年度の活動も前年通り、定期的に
 役員会を開催し、二月に最後の会議を開催し
 ました。来期の総会をはじめ文学部散策等の
 企画に取り組み、実施へ向け活動しております。
 今年度最後の役員会へ当日には、文学部
 創設百周年委員長齋藤昇先生、村上喜良文学
 部長が来訪されました。文学部同窓会として
 は、ゆるされる限り、学部の方にそのような
 形でお祝いをさせて頂こうと考えています。
 と、ところで四月には「花まつり」がありますが、
 ご存知でない方も多いかと思えます「花まつ

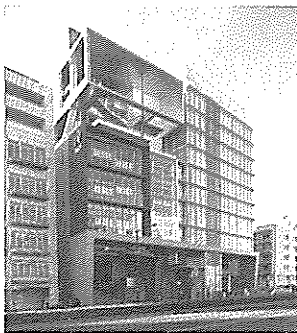
り」は「降誕会」「灌佛会」とも呼ばれ佛教の
 開祖御釈迦様の御誕生をお祝いする仏教寺院
 のお祭りです。

御釈迦様のお誕生の日は四月八日に行われ
 ています。

立正大学に御縁を頂かなければ どちらか
 と言えば知らない側であったかもしれませぬ。
 御釈迦様のよき日に困んで、同窓会活動も新
 たなスタートが出来ればと思っております。

この度 石川県能登半島を中心の被害が報
 告されていますが、おおくの場所で液状化が
 見られる現象が起き、大変な状況で未だ不
 由な生活を強いられていることでしょう。心
 よりお見舞い申し上げます。

文学部百周年の大きな節目でもありますの
 で、今年もよ
 りよい文学部
 同窓会活動が
 できますよ
 う、ご協力ご
 支援を宜しく
 お願い致しま
 す。



150周年記念館

令和六年度総会・講演会開催案内

文学部同窓会役員会は令和六年度総会と講
 演会を、下記の要領で開催することを決定。

是非総会・講演会・懇親会にご参加くださ
 い。尚、総会に参加された方には少ないですが、
 交通費として千円を補助させていただきます。

日時：五月二十五日(土) 十三時三十分から
 会場：品川キャンパス十一号館十一階

第五会議室B

議題：①令和五年度事業報告・決算報告及び
 会計監査報告

②令和六年度事業計画・予算案

③文学部創設百周年記念事業に向けて
 の協力体制について

④任期満了に伴う役員改選について

「浜松町・増上寺散策」の予習講演会

時 間 十四時三十分～十六時

講師：石田 裕美子氏(文学部同窓会理事)

講師は立正大学大学院社会学専攻修士
 の方です。講師は事前調査をし、その
 見どころを楽しく語っていただけます。

演題：浜松町・増上寺周辺散策の見どころ

詳しくは、立正大学同窓会のホームページに
 掲載されるので、ご覧下さい。

十六時三十分から懇親会を開催します。

場所：品川キャンパス内を予定しています。

今年の文学部散策は

浜松町・増上寺散策

2024年 九月一日(土) 実施

今年の文学部同窓会主催の散策は、「浜松町・増上寺周辺散策」と致しました。浜松町周辺は江戸時代初期に埋め立てられて開発された地域ですが増上寺あたりは高台で古墳や貝塚などもあり、江戸時代には、参拝・遊樂地として有名な地域でした。

明治以降に大きく変貌した地域ではあります。すがそれでもかつての江戸時代や明治時代を偲ばせるいろいろな建物や施設が残っています。今回はそれを楽しみながら散策してみたいと思います。江戸・明治の一風景を楽しみながらの、文学散歩計画です。

また昼食をとりながらの懇親も参加者の楽しみの一つでもあります。是非参加をいただきたいと思えます。

開催・申し込み要項は左記のとおりです。

集合・JR浜松町駅北口改札を出たところ。

出発・解散時刻・午前10時・午後2時頃

参加費・二千五百円(含昼食代・入館料)

行程・浜松町駅→大門→芝大明神→増上寺→

昼食→浜松町駅近辺にて解散

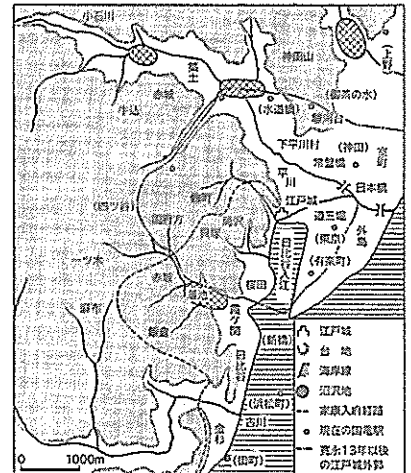
昼食は、午後一時過ぎを予定しています。

朝食をしっかりお取りいただき、参加下さい。

申し込み先・☎090-7257-12468

東京都大田区仲六郷2-6-2 西岡勇治宅

申込締め切り・八月二十三日(金) 必着



江戸時代初期の浜松町近辺図

「文学部創設百周年」特集

文学部創設百周年の祝いとして、文学部の教授や秋田支部の方からの特別寄稿をいただきました。紹介させていただきます。

文学部創立百周年に向けて

文学部創設百周年記念事業企画委員会

石山秀和 (史学科教授)

本年度(令和六年度)は、立正大学文学部創設百周年の年にあたります。文学部では、文学部創設百周年記念事業企画委員会を組織して、これまでいくつかの準備作業を進めてきました。ご助力いただいている同窓会の皆様にも知っていただきたく、その一端を紹介したいと思います。

まず最初におこなったこととして、委員長の斎藤昇先生のお声がけもあって、関係各位への広報活動をおこないました。委員の先生

方と日程調整をして、望月兼雄理事長、寺尾英智学長、さらには池上本門寺貫首ならびに日蓮宗管長の菅野日彰殿下にも直接お目にかかって、ご挨拶をさせていただきました。

つきにおこなったのが、学内に向けて、特に文学部内において何か広報活動ができないかと検討した結果、百周年を記念した「ロゴマーク」を公募する形をとって、広く皆さんに知ってもらおうと企画しました。詳細は文学部のホームページをご覧いただければと思います(これにあわせて特設ホームページも作成しております)。

インターネットを活用した投票の結果、飯塚司君(文学部史学科2022年度卒)の作品が最優秀賞となりました。作品は、「文学部が百年目のその先へのステップへと駆け上がる様子をイメージし、また、立正大学の「緑色」と橘をイメージした「オレンジ色」を使用することで、伝統とともに今後も活躍する立正大学を表した」としています。

このロゴマークは、百周年記念グッズであるボールペンに印刷され、すでにオープンキャンパスにて配布されており、教員の名刺にもロゴマークは印刷され、本年度はあらゆる場面でこのロゴマークをご覧になることができます。このほかにも、学生を主体とした「文学部100thアンバサダー」を組織しました。

教職員と学生の手作りで、こうしたいことが出来るのが、立正大学の良さではないでしょうか。本年度は蒔いた種が花開く年にしたいと考えております。

「文学部年輪」百周年に寄せて

秋田県支部 事務局長 中村 薫

本年は立正大学に文学部が創設され百周年を迎えます。この慶事を同窓会秋田県支部会員一同、心より祝福を申し上げます。

一昨年、立正大学が開校百五十年という祝賀の時を刻むことができました。明治・大正・昭和・平成、令和とたゆまぬ建学の精神を注ぎ、今日の九学部十六学科の総合大学として発展を遂げてまいりました。この金字塔の根幹をなし礎となつてきたのが「文学部」であるといえます。

願みれば、在籍期間、「文学部論叢」という文学部六科の教授陣の学際的論文を連載した橋の冊子が配付されてきました。学生の多くは学問的刺激を享受し、他学科の課題を俯瞰しながら文学部のアイデンティティを培うと共に、文化創造の素地を身につけていたように思います。

文学部百年の歩みは、風雪に堪えた古木の年輪に似て、内から外に精神が受け継がれ、「文学部年輪」を拡大させてきました。文学部同窓会は百周年記念事業として恒例の歴史散策の充実を図り、文学部の在り方を模索する記念講演や記念品作成を企画しました。こうした展開が次の百年の出発点となり新たな年輪形成の契機となると確信しております。

さて、本県支部は一九六七年に発足、会員七三二名。支部運営は文学部・宗門・郵政会が中心となり、総会は県内三地区持ち回りで開催、同窓会報「きずな秋田」を刊行し会員

相互の意思疎通を図っています。二〇一七年に創立五十年・北東北三県交流記念事業を開催することができました。

近い将来、北東北三県の連携の絆を東北六県に広げ、「みちのくの地」で同窓会地方大会を開催したいと願っています。(一九七六年地理学科卒)

「谷山ヶ丘通ひし学友のうるはしく星霜百年ここに功輝」

文学部同窓会理事 石田 裕美子 (社会学科卒)

コロナ禍も油断できない状況ですが、年の瀬新年のご挨拶は対面のできる機会も多くなりました。今年も文学部百周年を迎えます。

私が入学したのが十八年前なので百年のうちのほんの五分の一弱ですが、その年に大崎キャンパスでの一貫教育が始まり、夜間コースがなくなり、構内は分煙化が徹底され、サークル棟がきれいな研究室となり。卒業してもうそこまで大きく変わらないうと思えば百五十周年記念館が建ち・・・と、思い出の大学から日々発展して、訪れる度に懐かしさと共に新しい発見があります。

昨年の橘花祭はコロナ禍明けで大いに賑わい、文学部同窓会は百周年記念の印字をした梅林堂の生サブレを学生の皆さん、遊びに来られた皆さんにお配りしました。その帰り道でも、校舎も様変わりしましたねえと盛り上がったのですが、変わらないのは十八年前の

学生の皆さんの活気です。建物やカリキュラムは時代の流れを受けて取り入れつつ、十八年前と変わらない元気がありました。

コロナの影響も百周年の年には薄らぐと願っております。是非、今の大学をイベントの際などに訪れて盛り上げてみてはいかがでしょうか？

昨年実施の三鷹・吉祥寺、文化散策報告

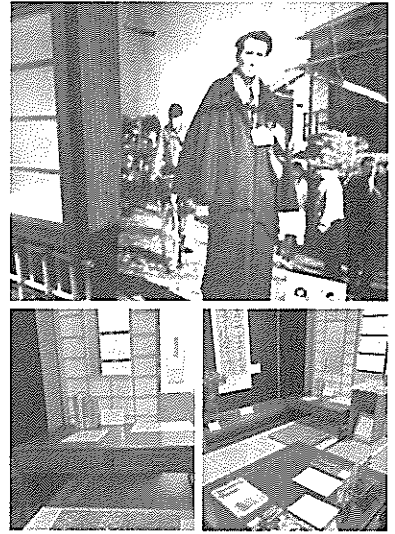
散策は九月九日(土) 十時に三鷹駅に十八名の参加を得ての実施となりました。

参加者は、昭和四三年卒〜平成二七年卒までの幅広い方々に参加頂き、事故なく終了することができました。当日三鷹駅集合時には、小雨が降りこの先どうなるかと案じていましたが、昼頃には雨もやみ、何とか事故なく最後まで散策を続けることが出来ました。

スタートは、駅前にある「三鷹市美術ギャラリー」内にある「三鷹の此の小さい家」という太宰治のお宅内を再現した施設です。ここで、太宰が執筆した座机や手書き原稿などを拝見しました。また太宰が愛用したマントのレプリカが衣紋掛けに掛けてあり、自由に羽織ってよいとのことなので、これを羽織り記念撮影などをした参加者もいました。

予定では、太宰が気に入ってよく散歩した跨線橋を散策する予定でしたが、雨のため急遽バスで、太宰の墓にお参りすることにいたしました。墓のある禅林寺には森鴎外の遺書が

彫られた石碑もあり、これを過ぎ、本堂と方丈の間を抜けると墓地となります。ここにある太宰の墓の反対側には、森陽外の墓もあり参加者の多くがこの両者に手を合わせていました。バスで、三鷹駅に戻るころには雨も上がり、太宰の旧居跡やなじみの店があったあたりを散策し、「太宰文学サロン」を訪門いたしました。ここで、ポランティアの方から太宰の生涯について概略の説明をいただき、併せて太宰が入水自殺した現場辺りまで誘導いただき、当時の玉川上水の水量は今と違い人がおぼれるほど流されるほどの水量があったことなどを含め説明をいただきました。



編集後記

私が社会学科に入学したのは、昭和四八（一九七三）年、熊谷校舎です。従って、大学に入学してから五十年という年月を重ねました。また今年が文学部創立百周年に当たり文学部の歴史の半分を大学と共に生きてきたこととなります。

熊谷に住んでみると夏は暑い、冬はすこぶる寒い関東の北海道ではないかと思つたものです。当時は教室にいたよりサークルボックスを梯子する生活の方が多かった気がします。また、生涯の友となる何人も人と此処で出会いました。友人の下宿に赴き徹夜で語り合ったり、明け方歩いて自宅に戻ることも沢山経験しました。

さて、同窓会の役員に就任して既に、二五年を超える年数となりました。立正大学で学んだ先輩や後輩が立正大学で学んでよかった、今の私があるのは、あの四年間の延長線上にある。そう思っていただけだろう、この「文学部だより」の中で同窓生の絆を少しでも繋げられるよう編集に努めてまいりました。皆さんが各方面で活躍に社会に貢献していらっしゃることを祈念してこのペンを閉じます。

（西岡勇治）

井の頭公園では、大盛寺の弁財天を拝観しました。実はこのお堂には石橋湛山先生の揮毫した扁額が掛けてありこれを確認した後、弁財天堂の裏手にある湧き水で小銭を洗う方もありました。

公園内を散策して、昼食の会場である「鳥良」に向かいました。

会場では、鳥料理に舌鼓を打ちながら、自己紹介タイムを持ち、和気藹々とした時間を過ごすことが出来ました。

最後に、吉祥寺で有名な「小ざさ」の最中（小

年次協賛金ご協力をお願い

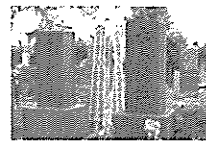
文学部同窓会の活動は、皆様からの年次協賛金が大きな支えです。年次協賛金は、主に文学部の各学科関係学会活動への助成（毎年一学科五万円）を行い、現役の教員や学生の教育研究活動の一助として役立てていただいております。また、会報の発行、講演会の開催や日本文化散策行事などの事業に支出しています。下記の方法で協力していただきますようお願い申し上げます。

< 年次協賛金の払込方法 >

ご協力いただける方は、郵便局に備え付けの払込取扱票をご使用になり下記の口座にお払い込みいただけますようお願い申し上げます。

- 【口座番号】 00160-5-177928
- 【加入者名】 立正大学文学部同窓会
- 【金額】 一〇 1,000円

誠に恐縮ですが、払込料金や振込料はご負担いただきますようお願いいたします。



山本有三記念館
(三鷹市)

豆と白あん）二つを参加者のお土産としてお渡しして、解散となりました。

ここからは、吉祥寺駅まで歩いて五分、左右には飲食店や土産物店があり、これを眺めながら皆さん駅に向かいました。（文責：西岡勇治）